

地震が首都直撃 空前の被害 サッカー交流や義肢提供

カリブ海に浮かぶイスパニョーラ島。1492年、コロンブスが発見したとして知られるこの島は、西側がハイチ、東側はドミニカ共和国が統治しています。

このハイチで2010年1月12日午後4時53分（現地時間）、マグニチュード7.0の地震が発生。死者は31万6千人にのぼりました。被害は、国連が「史上最も深刻な災害危機」と発表したスマトラ沖地震（04年12月）に匹敵する空前の規模となったのです。

多くの犠牲者が出た直接の要因は、震源が人口200万人の首都ポルトープランス近郊で、深度も浅い典型的な直下型地震だったためです。被害が拡大した背景には貧困もあります。フランスの植民地だったハイチは1804年に独立しましたが、その際、巨額の賠償金を支払うことになりました。国民総生産（GNP）は世界最低ランクにあり、政情も不安定です。建物は手抜き工事が頻繁に行われたと指摘され



地震後、AMDAが取り組んだスポーツ交流。2010年8月

ています。

地震の直撃を受けた首都は、大統領府や国会議事堂など多くの建物が倒壊し、大統領や閣僚すら屋内に寝る場所がないホームレス状態となりました。

しかも、刑務所が崩壊して4千人の受刑者が脱獄し、略奪行為が相次ぎました。治安維持を目的に2004年から駐留している国連ハイチ安定化ミッションと政府は完全に機能不全に陥ったのです。

こうした危険な状況の中でも、各国は相次いで救援隊を派遣。AMDAも地震発生3日後の15日、ドミニカ共和国経由で第1次救援チームを送り、2月12日までにAMDAグループの菅波代表をはじめ、計18人が現地入りしました。菅波代表は後に「がれきの街にはきつい死臭が漂い、豊富な救援物資も滞っていた」と振り返り、「復興のカギは人々の団結力にある」と呼び掛けています。

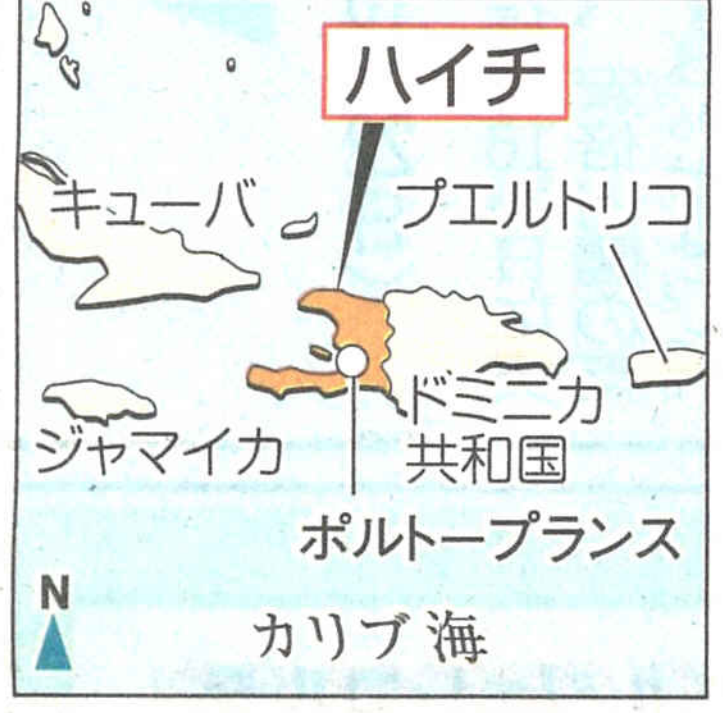
AMDAは、地震で下肢を失った約4千人に義肢の提供を始めました。歩けない人は最貧国ハイチでは、究極の社会的弱者になる可能性が高いからです。

10年8月には、被災者の精神的ケアと次世代の人材育成を目的に、ハイチとドミニカ共和国、日本の青少年がドミニカ共和国に集い、サッカー親善交流も行いました。

地震後の年末にはコレラが大流行し、感染者は17万人、死者は3651人にのぼりました（ハイチ政府11年1月発表）。AMDAは再び救援チームを派遣しました。

さらに16年10月、今度は大型ハリケーンが追いつ打ちをかけました。死者546人、行方不明158人（WHO16年10月28日発表）。AMDAハイチ支部は本部から4人の派遣を受け、巡回診療などに当たりました。地震からの復興はまだ途上ですが、復興へまっしぐらに進む決意をあらたにしています。

ハイチ 面積は2万7750平方キロで北海道の3分の1程度。人口は1071万人。民族はアフリカ系が9割を占め、黒人が建国した世界初の共和国。主産業は農業で、コーヒーが最大の輸出品。災害にしばしば襲われ、無秩序な森林伐採やインフラ整備の遅れが被害を拡大する傾向にある。AMDAハイチ支部は2011年、ポルトープランスに開設。スタッフは17人。



7 ハイチ

AMDAハイチ支部長

マック・ケビン・フレデリック 医師(44)

